

巻頭言



日本赤十字放射線技師会
常任理事 戸口 豊宏
(大分赤十字病院)

全国赤十字放射線技師会1200人強の会員の皆様、毎日の業務お疲れ様です。

まず、先の理事会に於いて、次回から各理事が輪番制で巻頭言を書きましょうという話になった。まずは、戸口さんからと深谷赤十字病院の清水理事から声をかけられ、巻頭言を書くようになりました。

さて、先の創刊50号記念誌の巻頭言で益井会長が記した「守・破・離」について、もう一度私なりに考えてみたいと思う。

「守」とは、基礎である。先人としての師の教えである型を守ることである。ただ先輩等の教えを守り、真似て、学んで、型の反復練習により学習する時である。成長等がはっきり見える時期である。この最初の、学習・学びの段階が「守」である。野球でいうと、小・中学野球までの基礎固めと考えて下さい。

「破」は、守で学習したもの（基礎）を、応用し自分なりに考え、型（技術）を深め、広げる時期である。成長し発展する為に、技を完全に身に付ける為に、未熟な型を打ち破る為に、研究・変革の段階が「破」である。そ

の為には、初心に帰り自らの学ぶ姿勢を作り素直に、謙虚に、自分なりに考え、思考錯誤を繰り返す時である。他の意見を素直に聞き、優れたものを認めることが必要であり、学び行動することである。次は、高校野球・大学野球と考えてもいいだろう。

「離」とは、物事に関して自由に、そして在りのままである。自然に、何事もでき意識する事無く、自由自在に出来る時である。その結果、それぞれの世界、その人自身の技術が、自然に創出される。この段階が「離」である。WBCで活躍した日本代表選手などは、これに当てはまるであろう。

昨年7月当院で、職員研修会が行われた。タイトルは、「やりがい論&キャリアデザインセミナー」講師は、田中和彦さんという方で、以前リクルート社広報室広報課長でリクルート事件担当された人で、現在は人材コンサルタント（採用・企業内研修・組織活性化など）兼コンテンツ・プロデューサー（映画・出版・広報誌など）として各方面で活躍中の方である。田中さんの講演の中で、最近の若い方たちは、カーリング世代というらしい。どういうことかという、ブラシで道を作らないと前に進まないことを言うそうだ。

我々も諸先輩方が作られた道を、ストーンのように進むのではなく「守・破・離」と実践していくこと、先人が築いた50年以上の歴史の中で良きものは踏襲し、改革すべきものは刷新する行動が必要と思う。いま我々は、紙からHP（ホームページ）へ、今までの型を破り、全国会員は、離しているがHPを通じて、会長巻頭言で言われたホットクロス計画による会員相互の連絡網補強、モットクロス計画による学術分科会による会員スキルの向上、そして、個々の創造を繰り返して行けば、日本赤十字放射線技師会の発展につながっていくことを信じている。

……*****……*****……*****……*****……
@ @ @ @ @ @ = 日 赤 技 師 会 の 動 き = @ @ @ @ @ @

第1回常任理事会が開催される！！

平成21年度第1回常任理事会が開催され、総会にて承認をしていただきました平成21年度事業に基づき、その方針が確認されました。その中で、本会役員の名称、担当役割について再考されました。また、「全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会」という名称から10年先を見据えた名称に変更にしていく内容も審議されました。

そしてその組織改編は、事務局(継承)、総務担当理事(継承)、財務担当理事(継承)、学術担当理事(継承)、広報担当理事(継承)、企画担当理事(継承)、**災害担当理事(新設)**、**I T担当理事(新設)**となりました。

今回新設された、**災害担当理事(新設)**は、日本赤十字社職員として携わる最大の事業であり、本会として
も一大事業と認識し、情報を配信すると共にホームページにおいても展開することとなりました。**I T担当理事**は、ホームページの更新、組織・表彰・情報管理を担当することになりました。

新体制が船出し、新たな試みに邁進してまいります。

【役員担当分担】 会 長： 益井
災 害： 久保田副会長（兼・文書・I T）
広 報： 清水副会長（兼・I T）
事務局： 磯田
総 務： 辻（兼・安全推進協議会）
財 務： 前川
学 術： 浅妻（兼・災害）
企 画： 新美（兼・I T）
I T： 石田（兼・組織）・戸口（兼・表彰）
監 事： 鈴木・中里

……*****……*****……*****……*****……
業務研修会・定期総会速報

6月8・9日（月・火）、平成21年度全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会及び日本赤十字放射線技師会定期総会が開催されました。
業務研修会と定期総会の速報をお知らせいたします。

今回の業務研修会は、本社講演、教育講演、学術講演、ディスカッション、会員研究発表という構成で2日間実施されました。今年度より研究発表では、最優秀発表賞、優秀発表賞が設けられ、座長及び学術部推薦を経て、業務研修会プログラム委員会にて最終選考が行われ、次の4名の方々が優秀発表賞を受賞されました。尚、最優秀発表賞は該当なしとなりました。（選考基準、講評等は、会員専用欄>学術に掲載いたしました）

優秀発表賞（順不同）

高津安男氏（大阪赤十字病院）

山本絵美氏（京都第二赤十字病院）

齋藤幸夫氏（深谷赤十字病院）

古西健太氏（広島赤十字・原爆病院）

次年度も会員の皆様の発表をお願い致します。

.....
業務研修会・定期総会を終えて

日本赤十字放射線技師会 会長 益井 謙

6月8・9日（月・火）、平成21年度全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会及び日本赤十字放射線技師会定期総会が開催されました。本社の会場の確保が困難になっている昨今、新型インフルエンザ喧騒の最中の開催と、時代の節目らしい不確定要素の多い中での開催となりましたが、120名ばかりの参加を賜り、ご協力の下、盛会裏に終えることが出来ました。会員の研究発表は、事前の査読審査も行われ、学術抄録もしっかり出来上がって、会員への周知が充分出来ていたと感じました。

総会では新執行部の承認も得られ、新理事編成もスムーズに叶い、新チームによる技師会の牽引体制が整いました。その活動は全てホームページ(HP)に展開し、会員一人一人に認知して頂きますし、技師長 ML(登録率 91.3%)で、施設長とのコミュニケーションを図って行きます。HPの双方向性活用により、会員個々と交流を推進して行きますので宜しくお願いします。

日本赤十字放射線技師会
<http://www.jrcart.jp/>

@ @ @ @ @ = 研修会アンケート調査の実施について = @ @ @ @ @

‘ 会の行く末を会員からの声で！！ ’

日頃より本会運営にご協力を頂き、深く感謝申し上げます。

先達ての6月8日、9日の2日間、日赤本社にて平成21年度日赤放射線技師会業務研修会が開催されました。参加された会員におかれましては、それぞれ知識と刺激を得て日々の業務にまい進されている事と思います。

さて、本研修会のプログラムにつきまして例年継続されたプログラム構成で企画され、その内容は日本赤十字社医療事業部講演、特別講演、学術発表等々の企画を継続しております。今、理事一同（執行部）は過去を踏まえ将来を見据えて再考すべき時期が到来していると認識しております。新体制の理事で再スタートしたことを期に、過去体制から脱皮し、現在の医療状況を見つめながら将来を先取りできる形の研修会の企画、或いは日赤医学界との関わりを模索したいと考えております。

つきましては、本会がこれから目指すべき方向性を会員から広く求め、今後の企画や存続のあり方についてアンケート調査（①今年度研修会へ参加された方対象のアンケート②これまで研修会へ参加されたことのある方へのアンケート）で把握したく、①、②のどちらかでご回答をお願い申し上げます。

ホームページ <http://www.jrcart.jp/member/index.php?ID=126>

日本赤十字放射線技師会 組織調査部

.....*****.....*****.....*****.....*****.....

ΦΦΦΦ= 今後の予定 =ΦΦΦΦ

各ブロック研修会が下記のとおり開催されます。

【北海道ブロック】 第19回学術研修会 平成21年9月26～27日

【東 部ブロック】 第22回学術研修会 平成21年11月28～29日（白垂紀荘）
水戸赤十字病院担当

【近 畿ブロック】 第18回近畿ブロック学術研修会 平成22年2月27～28日
神戸赤十字病院担当

【九 州ブロック】 第10回学術研修会 平成21年9月26～27日 アソシエート
大分赤十字病院担当

☆☆☆☆☆=The Japanese Red Cross Association of Radiological Technologists =☆☆☆☆☆